

お嬢さん乾杯！

鑑賞日：2016・6・27

制作 1949年 松竹映画 モノクロ 上映時間 89分

監督 木下恵介 脚本 新藤兼人

出演者 原節子、佐野周二、佐田啓二、坂本武、青山杉作、東山千栄子、永田靖

受賞 毎日映画コンクール 女優演技賞（原節子）

（あらすじ）

自動車の修理業をやっている圭三(佐野周二)に、取引先佐藤専務(坂本武)から縁談が持ち込まれた。相手は池田泰子(原節子)という元華族の令嬢で、提灯に釣り鐘だと圭三は問題にしないが、佐藤専務の熱心な口説きに根負けして、とにかく見合いということになった。見合いをしたら、相手は予想していた高慢なお嬢さんではなく、慎ましいお嬢さんで、圭三はすっかり気に入ってしまった。佐藤から相手も承諾したと聞いた圭三は舞い上がり、新調の服、新しい靴、派手なネクタイを締めて、池田家を訪問した。圭三は家族の人たちに紹介されたが皆、良い人ばかりである。ただ、父親の浩平だけが、詐欺事件の側杖で刑務所に送られていた。そして、池田邸も100万円の抵当に入っており、その期限はあと3月だと佐藤から聞いた圭三は、金のための結婚だと失望するが、泰子への愛情は深まった。圭三は泰子と帝劇にバレエを見に行き初めて見る世界に感涙する。その帰りに見た拳闘の試合に泰子も興奮するのだった。泰子の誕生日の祝いに圭三はピアノを贈った。泰子の弾くショパンの曲は分からない圭三は故郷の民謡を歌った。

圭三と泰子は刑務所に泰子の父親を訪ねた。「金のための結婚はするな」と忠告する父親に泰子の心は重い。そぐわない雰囲気のまま別れた圭三は、自分と泰子の住む世界は違うと感じた……

（解説）

1949年、原節子は4本の映画に出演した。『殿様ホテル』（監督クラタ・フミンド）、『お嬢さん乾杯！』（木下恵介監督）、『青い山脈』（今井正監督）、『晩春』（小津安二郎監督）である。この年のキネマ旬報のベストテンでは第1位『晩春』、第2位『青い山脈』、第6位『お嬢さん乾杯！』であり、実に原節子主演の映画〔ただし『青い山脈』は群像劇だが原節子はその中心にいる。〕は3本がベストテン入りし、それらの作品での原節子の演技が認められて毎日映画コンクールで女優演技賞が与えられた。原節子にとっては初の栄誉である。

『お嬢さん乾杯！』は原節子が木下恵介と組んだ唯一の映画である。脚本は木下と新藤兼人。没落した元華族の令嬢と自動車修理工が見合いをし、結婚するまでを描いた喜劇だが、木下恵介の軽快なタッチと新鮮な感覚は、小津安二郎、成瀬巳喜男とは異なる原節子の明るい側面を引き出している。その意味からも原節子にとって、この映画は貴重な作品と言えよう。